



直井道生 准教授

専門：都市経済学、応用ミクロ経済学

(インタビュアー：原沢・菊井)

『実証分析を中心とした“都市経済学”』

Q. 直井先生の専門とされている研究内容はなんですか？

僕は都市経済学というのが専門で、まあそれだけで終わっちゃうとまずいんで（苦笑）やっていることはですね、都市経済学といってもいろんな分析をしている人がいるんですけど、個人的にはわりと住宅とか不動産とかの問題をやっています。で、もうちょっと言うと、例えば住み替えの行動とか、高齢者の住宅需要がどうか、最近は結構そういった形が多いですかね。応用ミクロ経済学みたいな分野なので、理論的な分析をする人もいれば、データを使って実証分析といった計量経済学みたいなことをする人もいますけど、僕はどっちかというデータを使って実証分析を中心にやっているような感じですかね。あんま面白くないなこりゃ（笑）

『いつの間にかに都市経済学?!』

Q. 都市経済学を研究することになった経緯を教えてください

最初はですね、学部生のころは労働経済学を勉強していたんですね。ゼミも労働経済学のゼミに入っていました。労働経済学ってわりと幅広い分野で、そこそイメージしやすい賃金がどう決まるかとか、労働需要とか、企業がどうやって雇うのかとか、そういった話もありますし、もっと広い、家計の問題、家で子育てをどうするかとかお母さんがどのくらい子育てに時間使うかとか、そういう問題も結構労働経済学の中で扱う問題なんですね。で、そう考えると家計の意思決定というか、消費者の意思決定みたいなのも幅広く労働経済学ってやってて、大学院に進んでそういうのをやっているうちに、その中でも住宅問題に興味が出てきたんです。やっぱり家を買うとかが結構な1大イベントな

んで。でまあいつの間にかそういうのを扱う都市経済学ってのが専門になってたっていう感じですかね。いつの間にか（笑）

最初から都市にすげえ興味あってとかそういう話のほうがいいのかもしいけど（笑）、

『日本では持ち家のほうがお得?!』

Q. 一軒家を買うのとマンションを借りるのとではどちらがお得?

何の政策的な歪みみたいなのがなければ、どっちでも変わらないよねってのが、経済学の基本的なスタンスなんだよね。でも現実にはいろんな政策、例えば持家優遇政策みたいなものがあるわけで。それがどのくらい持ち家をさ、促進しているのかとか。割と日本って持ち家率高いほうなんです、国際的に。で、国によってそういう違いがあって、例えば政策、その税制とかが持ち家率にどう影響を及ぼすとかみたいなのも都市経済学とか住宅とかやっている人の研究テーマの一つではあります。で、どっちがいいんですかっていうと、少なくとも今の日本の税制とか考えると持ち家のほうが得になるように作られているのかな。

『身近な興味を経済学的に分析!!』

Q. 直井先生の教育理念を教えてください

教育理念？教育理念かあ（笑）まったく考えてなかったんだけど、、、まあそうねー、できるだけ自主性には任せたいとは思っています。テーマ的にも、都市経済学と応用ミクロだったかな？なんか年によって応用ミクロって書く年と応用計量って書く年があって、ばらばらだったりするんですけど。さっきも言ったように労働経済学とかもそうですし都市経済学もそうなんですけど、扱う範囲がすごく広いので、ゼミの学生とかにはできるだけ幅広い興味で、いろんな論文書いたりできるようにやっていきたいなあと思っていて。教育理念じゃないかもしれないけど（笑）分野的にはカバーする範囲が広いので、割と身近な興味をきちんと経済学的に分析できるような手助けをしたいなあいつも思っています。

『大学の先生になることは考えてなかった?!』

Q. 直井先生の学生時代のお話を聞かせてください

学生時代？どーんな生徒でしたかねえ。。。どんなってどんなですかね？（笑）
大学時代はサークルがゴルフサークルなんで、結構ゴルフやってましたね。今もやってますけど、前ほどは行けてません。（将来の夢を聞かれ）学生の頃から大学の先生になろうと思っていたわけでも、大学院に進学する時点でそのまま残って研究者になろうと思っていたわけでもなくて。わりと勉強嫌いじゃなかったんで、大学に修士くらいまで行ってみようかなって思って大学院に進学して、、、で、やってみたら面白いんで、そのまま残ってみようかなと思って、そのまま行っちゃって感じなんで、すごーく大学の先生にならなきゃと思っていたわけでは少なくとも学生の時はなかったですかね。（就活について聞かれ）今はインターンとかあるけど当時はまだなかったんで、まあ説明会とかは結構行って、3年生の間ぐらいはちょろちょろっと就職活動したんですけど、わりとそのへんで大学院に進学しようかなあというのを就活やってみて逆に思った。

『ばらばらに学んだ知識をひとつにつなぐ!』

Q 学生に勉強の面白さを伝える秘訣は？

自分の授業で気をつけている、気をつけられているか分からないですけど（笑）やっているのはいろんなテーマを扱ったときに、そのテーマの間にどういった関係があるかだとか、実は背後にこういう経済学的な考え方が隠れていて、それを使うと実はこれと関連しているとか、そういうことですかね。個別の知識というよりかは、その知識、ばらばらに学んでいた知識がこうつながっているんだみたいなのをできるだけ補っていけたらいいかなあとは思っています。人によってそれは楽しいと思う人と理屈っぽくてつままないと思う人がいるかもしれないんで、成功しているかはちょっと分からないですけど（笑）

『身近なテーマを経済学的に分析したいという意欲!!』

Q 直井ゼミを志望する2年生に求めるものは何ですか？

扱うテーマがすごく広い分野で、且つわりと身近なテーマもある。家買ったりするのは皆さんにとってまだ身近じゃないけど、10年もしたら身近になると。そこでこう身近なトピックってのもいっぱいある分野なので、その意味で身近なトピックに興味があって、それを経済学にあてはめて分析してみたい、っていう意欲がある人がいいなあと。結構経済学っていうと立派な政策の話とか経済政策の話とか、もちろんそれも興味あるし面白いんだけど、そうじゃない面

白さも少なくともあって。僕が学部生の時思ったのは、こんな身近なテーマにこんな経済学の、日吉で習っていることを応用すると面白いことができるんだってというのがこの分野に興味持ったきっかけだったんで。身近なテーマにいろんな興味がある人、ってというのがいいですね。

『失敗を気にして尻込みするのではなく、とりあえずはトライを！』

☆最後に2年生へのメッセージをお願いします☆

去年のゼミ生も今年のゼミ生もわりとおとなしくて、良く言えばまじめで、悪く言うとちょっとおとなしいのかなあってのはあって。もしかしたらうちのゼミだけじゃなくて全般そうなのかもしれないんで、そういう意味ではやっぱり良く知らない分野とかにチャレンジしてほしいなって。ありがちなメッセージですが（笑）やる前にいろいろ考える人が多い気がするんですよ。うまくできるかなーとか。卒論の発表とか聞いても結構そうで、このテーマに興味があるんだけどうまくいかないかもしれないって、尻込みしている学生が結構多いですかね。とりあえずやってみりゃなんかできんじゃないのって個人的には思うんで、とりあえずはトライしてみしてほしいな。

【編集後記】

梅雨真っ只中というジメジメした気候とは裏腹に、相変わらずの爽やかさ全開で対応して下さった直井先生。年齢も非常にお若く、学生時代を回顧する時に時折見せるその表情は、学生そのものであった。そんな先生だからこそ、学生も敬意を表しつつも、気軽に相談できるのでないか。ゼミは今年で2期目という。そんな新規ゼミが今後どのような発展を遂げていくのか、先生の手腕に注目である。

最後になりますが、

お忙しいところ本企画にご協力していただき、誠にありがとうございます。

全塾 原沢和志